

死に至るまで忠実であれ

ヨハネの黙示録二章8〜11節

見よ、悪魔が試すために、あなたがたのうちのある者を牢に投げ込もうとしている。……苦しみを受けるであろう。死に至るまで忠実であれ。そうすれば、あなたに命の冠を授けよう。(10)

二番目の手紙はスミルナの教会へ送られました。スミルナ教会の人々は極度の苦しみと貧しさの中に置かれていたようです。厳しい迫害があったからです。その苦難がしばらく続き、迫害は避けられないと言われています。そのために、「死に至るまで忠実であれ。そうすれば、あなたに命の冠を授けよう」と主は励ましておられます。「忠実であれ」とは、主イエスに対する信頼を持ち続けよ、ということですよ。それも最後の死に至るまで。このときスミルナの教会の監督をしていたのは、殉教者ポリュカルプスだったと言われています。彼は文字通り死に至るまで主に忠実で生き続け、火あぶりの刑で殉教しました。迫害の苦しみも、その先にある「命の冠」が与えられるという栄光に比べたら、取るに足りないものだったのです。主は今も語られます。「死に至るまで忠実であれ」と。